

泌尿器科

2013年6月から、ロボット支援前立腺摘除術を開始し、平成27年度の1年間に同手術を21例に実施した。当初は、腹腔内手術既往のある症例や、緑内障など脳圧、眼圧にリスクを有する患者を回避し手術を施行していたが、現在は適宜腹膜外からのアプローチを用いることにより、前立腺癌手術のほぼ全症例に対し、本術式を適用している。

腎・副腎の良性、悪性疾患、腎盂尿管の尿路上皮癌に対しては、積極的に体腔鏡的手術を採用しており、現在、腎摘除術、副腎摘除術、腎尿管全摘除術の約7割が腹腔鏡アプローチとなっている。ただし大径の腎悪性腫瘍、広範なリンパ節郭清を要する腎盂尿管癌に対しては、手術の安全性、制癌性を考慮し、むしろ開腹手術を優先して行っている。小径の腎腫瘍に対する腎温存手術（腎部分切除）も増加傾向にあり、平成27年度は9例（うち3例は体腔鏡下）に実施した。平成24年に保険収載となったのを受け、膀胱癌に対する腹腔鏡下膀胱全摘術も制癌性を十分に検討しつつ、開始している。

悪性腫瘍の長期手術成績については、1990年以降の腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌に対する術後遠隔成績（5年生存率）を集計し、ホームページに開示している。

腎内科（内科系）と泌尿器科（外科系）の共同プロジェクトとして、腎泌尿器センターを設け、腎不全関連の診療（生体腎移植、腹膜透析）を綿密な連携のもと行っている。生体腎移植手術は、平成18年より13例に対し実施した。

a. 体制

スタッフ

平成27年度、後期研修医が奥村悦久より藤原真希に変更となった他は変更なく、主任部長1名、副部長2名、医員1名、後期研修医1名で診療に当たった。平成28年4月より岡田卓也が主任部長として着任し、計6名の体制となっている。

氏名	役職
岡田 卓也	(部長、平成28年4月より)
金丸 洋史	(部長)
宗田 武	(副部長)
白石 裕介	(副部長)
大饗 政嗣	(医員)
藤原 真希	(後期研修医)

b. 診療実績

カテゴリ	手術名	手術件数	(うち体腔鏡下)
副腎	副腎摘除術	6	(6)
腎	腎摘除術	19	(16)
	腎部分切除術	9	(3)
	腎盂形成術	1	(1)
	経皮的腎結石破砕術	2	
	その他	6	(1)

	生体腎移植術 移植腎用腎採取術	2 2	(2)
腎盂・尿管	腎尿管全摘術 経尿道的尿路結石除去術(TUL) 経尿道的尿管ステント留置術 尿管ステント交換術 尿管鏡 その他	2 28 34 45 6 12	(2)
腹壁	CAPD カテーテル留置術 CAPD カテーテル抜去術 尿膜管摘出術 その他	7 7 4 2	(7) (3)
後腹膜	後腹膜リンパ節郭清術 その他	1 2	(1)
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TUR-B t) 経尿道的膀胱結石除去術 膀胱全摘術、尿路変更術 膀胱部分切除術 その他	91 3 4 1 6	(2)
前立腺	ロボット支援前立腺全摘術 恥骨後式前立腺全摘術 経尿道的前立腺手術 経会陰式前立腺生検	21 2 2 26	(21)
尿道	尿失禁手術 (TOT) 内尿道切開 その他	1 4 2	
陰茎・陰囊	陰茎部分切除術 環状切除術 陰囊水腫根治術	1 2 4	
精巣	高位精巣摘除術 精巣固定術 その他	5 2 1	
その他		4	
合計		379	(65)

c. 研究実績

学会発表

- 1 宗田 武 ロボット支援前立腺全摘除術初期 20 例の検討 第 103 回日本泌尿器科学会総会 2016/4/25 (石川)
- 2 宗田 武 前立腺生検後の排尿障害の検討 第 22 回日本排尿機能学会 2015/9/11 (札幌)
- 3 白石裕介 体腔鏡下副腎摘除術 96 例の検討 第 103 回日本泌尿器科学会総会 2015/4/20 (石川)
- 4 白石裕介 腎移植後リンパ瘻を契機に尿管狭窄をきたした 1 例 第 49 回日本臨床腎移植学会 2016/3/23 (鳥取)
- 5 大饗政嗣 腎盂癌・尿管癌における手術症例の検討 第 103 回日本泌尿器科学会総会 2015/4/19/ (石川)

論文発表

- 1 白石裕介 Tacrolimus 血中濃度測定における ACMIA 法と CLIA 法の比較移植 第 50 巻 6 号 627-631 2015